									笠	理番	方	24 C -201					
教科名	工業	崔 (줯	建設)	科	彩	目名	建設実習 □必修 ■選択	Ą	学年	2	年	単位数	3				
使用教制					建	築実習	(実教出版)		使用氡	数室	(室 建設科実習棟						
学習目			その専		下に関	員する基	- 礎的な知識と技術を実習に。	よって	体験	し、実	実際に	こ活用する値	だ力と態				
	評価法	興	□定≸	朗考査 フォー		□小テ	業態度と合わせて、下記項目スト ■ノート・授業プリ、 (プレゼンテーション・小詞	ント 論文・	■捌 レポ	長り返 ート・		ート ■イ Ξ学習ノート					
評価	評価組	a 知識・技術 工業に関する基礎的・基本的な技術を身に付けた 計画・適切な処理および成果を的確に表現する技															
計៕	観点の	b	b 思考・判断・ 工業に関する基礎的・基本的な技術を身に付けたか。安全や環境に 表現 計画・適切な処理および成果を的確に表現する技能を身に付けたか														
	趣旨	С	に取	的に学 なり組 態度			関する基礎的技術について関 取り組む実践的な態度が身に										
						各観点でめます。	で評価し、観点別学習状況の記	平価(А, І	3、C	の3.	段階)および	び評点				
学期	月	学	習項目	■・単	元		学習内容・ねらい				TP	評価方法 [目	a·b·c				
1	4 ~ 7 月	\ \ \ \ \ \ \	測量 敷地の水準測量 内業 木材加工 材料の切断・墨付け 木材の加工 土木工学 根切り 基礎の打設 機械加工 塩ビ管、ガス管加工									□定期考査 □小テスト ■ノート abc ■振り返りシート a ■作品 abc □パフォーマンス課題 □その他 ()					
2	9 ~ 12 月	<u>О</u> ±	引量 、材加 二木工: 後械加	学		トランシットの据え付けと諮詢 閉合トラバース 木材の加工 木材の組み立て 開水路、管水路の実習 ドローン測量による出来形管理 3級配管技能士課題作成						□定期考査 □小テスト ■ノート abc ■振り返りシート a ■作品 abc □パフォーマンス課題 □その他 ()					
3	1 ~ 3 月	<u></u>	引量 、材加 二木工 後械加	学		座編み	・角の測設、水盛り、遣りた 椅子の座面仕上げ リートの設計基準強度 接	□定期考査 □小テスト ■ノート ab o ■振り返りシート a ■作品 ab o □パフォーマンス課題 □その他									
担当者	からの	ンメヽ	ッセー	ジ (音	之習 :	方法なと	·)			-	`		/				

安全に配慮して実習が大前提になります。身に付けた技術で、現場の施工に応用できるよう、しっかり考察 を深めてください。

						生	整理番-	亏	24 C -	-202						
教科名	工業	类 (建設)	科	科目名	ブラッシュアップ実習 □必修 ■選択	学年	2	年	単位数	3						
使用教			建	築製図・第	実習 (実教出版)	使用	教室	室 建設科実習棟								
学習目					- 礎的な知識と技術を実習によったにおける技術への興味・関心を											
	評価法	□定期	明考査 フォー [・]	□小テ	業態度と合わせて、下記項目でスト ■ノート・授業プリン (プレゼンテーション・小論ご	ト ■i 女・レポ	振り返 ート・		ート ■イ	作品 ト))						
評価	評価	a 知識	战・技術	作品・価する。	におけ	る知識	の定	着と技能の)修得を評							
計Ш	観点の気	D	・判断 表現	いるか	レポートや課題等で、各実習で得た知識を使って自分なりに考え、表現し いるかを評価する。											
	趣旨	c に 取	的に学 なり組む 態度	。 天省中	実習中の態度及びレポートや振り返りシート等で、学びへの主体性や、学習の進捗度を理解して前向きに取り組もうとしているかを評価する。											
		す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点 10の10段階)にまとめます。														
学期	月	学習項目	・単元	元	学習内容・ねらい		IÏ	評価方法 [目	a · b · c							
1	4 ~ 7 月	○測量・ ・機器の(○パース ・立体模型 ・立体模型	使用法 型の製	電動工 作 立方体 1消点 透視図 ※第二	具等での木工、平板・レベル・トランシッ 模型の製作による各面の見え方、2消点、3消点の考え方 法の学習 大津合同庁舎の設計にかかるワップも定期的に参加します。	î	法	定	考査 -スト -ト 返りシート	abc a abc						
2	9 ~ 12 月	・透視図 ○作図実 ・建築物が ・CAD		建築物 鉛筆- 色銀 ※第二	の模写と透明水彩の使用方法 一色による(強弱の)建築物外)描き方 描き方	□ □]小ラ ■ノー ■振り ■作品	· 返りシート 治 ォーマンス課題	abcabcabc						
3	1 ~ 3 月	○模擬ショ デー色実習 ・建築物 ・プレゼ、	ン・ 外観 内観	透視図 透視図 シ:3DC ※第二 ショ	法を使った建築物外観パースの 法を使った建築物内観パースの ADによるプレゼンテーション 大津合同庁舎の設計にかかるワ ップも定期的に参加します。	描き方]小ラ ■ノー ■振り ■作品) 返りシート h ォーマンス課題	a b c a a b c a b c						

担当者からのメッセージ(学習方法など)

建築デザインに関する基礎的技術について学び、鉛筆(単色)や色鉛筆、透明水彩を使って建築パースを作成し、プレゼンテーションや建築設計時の表現方法を学びます。

											E埋番·	全理番号 24 C-203					
教科名	二	美 (桑	建設)	科	和	斗目名		建設製図 ■必修	□選択	学年	2	年	単位数	2			
使用教					建築	設計製	図(実教出	版)		使用	_ 教室		建設科製	図室			
学習目	習の 標						工業規格及び専門分野の製図について基礎的な知識と技術を習得させ、 態度を育てる。										
	評価法		□定其	明考査 フォー		□小テン	欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 □小テスト □ノート・授業プリント ■振り返りシート ■作品 ス課題(プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート)										
評価	評価	a	知識	・技行	術	建築製図に関する基礎的な知識と技術を身に付け、正確な図面として表現力 する技能が身につけられたか。また、											
叶川	観点の知	b 思考・判断・ 各種構造物に対応できる応用力と、図面の記 表現 現する能力が身についたか。										解し	、適切に判	断し、表			
	趣旨	全体的に学習 は										- 習の	の進捗度を理解して前				
		デす観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点∼10の10段階)にまとめます。															
学期	月	学	習項目	・単	元		学習	習内容・ね	1511			評価方法 項目 a・b・c					
1	4 ~ 7 月	• 幽	木構造の 設計製図 所面詳細図 木造の構造についてのしくみを理解する。 作図の順序と表現方法を理解する。									□定期考査 □小テスト □ノート □振り返りシート ■作品 abc ■パフォーマンス課題 abc □その他 ()					
2	9 ~ 12 月	• 西i		計製図 平面] i図	鉄筋コンクリート構造の構造についての しくみを理解する。 作図の順序と表現方法を理解する。						□定期考査 □小テスト □ノート □振り返りシート ■作品 abc ■パフォーマンス課題 abc □その他 ()					
3	1 5 3 月	• 矩	三計図	計製図		しくみ? 作図の川	ンクリート ^を 理解する。 順序と表現	0		□定期考査 □小テスト □ノート ■振り返りシート c ■作品 abc ■パフォーマンス課題 abc □その他 ()							
						方法など				.]) ?	٠ ٠			- 1			
製図に	-関する	- 基本	下的な:	技術・	知記	識につい	て字び、オ	5現万法を	・上天するこ	ことによ	つてし	レくす	みを理解し`	ましょ			

							と埋番が	号 24C-	24C-204						
教科名	工業	羊(建設) 科	科目名	建築構造(選技 □必修		学年	2	年単位数	2						
使用教副教材			建築構造	(実教出版)		使用	数室	室 IIR教室							
学習目標		建築物の構造及 度を育てる。	び建築材料	建築材料に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態											
	評価法	■定期考査	■小テ	業態度と合わせて、「 スト ■ノート (プレゼンテーショ)	■振り返	りシー] て・レポ	ト ■ ート・	作品 自主学習ノー) })						
評価	評価	a 知識·技行	術 定期考	定期考査や小テストなどで生徒の理解度を評価する											
н г ррц	観点の	b 思考・判断 表現	乍図課! する	図課題などで、自分なり ら											
	趣旨	主体的に学 c に取り組 態度	さ。 技業中	業中の態度やノートの丁寧さ、振り返りシートなどで、授業に対する積極 や主体性を評価する											
		す観点に基づい 10の10段階)に													
学期	月	学習項目・単	元	学習内容・ね		<u>評価方法</u> 項目	: а·b·с								
1	4月 5月 6月 7月	○鉄筋コンクリート構	鉄筋コンクリー基礎	の特徴と構造形式 ・! (形状・寸法、品質・ クリート -トの材料、硬化後のコン! ・躯体 の形式、躯体の構成・	・表示)			定期考査 小テスト ノート 振り返りシート 作品 パフォーマンス課題 その他	abc abc abc abc						
2	10月	○鉄筋コンクリート構 ○鋼構造	(仕上げ ・壁ン ・構造 ・鋼材 ・基礎	が、外部仕上げ、内部仕構造 (壁式構造の程 ストレストコンクリー の特徴と構造形式 の が接合(高力ボルト・	重類) - ト ・鋼と鋼材 ・ボルト・	溶接)		 定期考査 小テスト ノート 振り返りシート 作品 パフォーマンス課題 その他							
3	2月 3月	○鋼構造 ○合成構造	・仕上 ・軽量: ・鉄骨: ・コン		定期考査 小テスト ノート 振り返りシート 作品 パフォーマンス課題 その他	a b a b c a c a c b c									
1 - 1 - 1.6	, ,)メッセージ (色	7 33 1 . 71 . 7 . 1	21											

鉄筋コンクリート造や鋼構造は、規模の大きな建築物に多い構法です。住宅会社以外の建設会社では、これらの構造が主になってきますので、自分の将来を見すえてしっかり学習しましょう。

										4	整理番	亏	24 C	-205			
教科名	二	巻 (廷	建設)	科	彩	目名		築計画 ■必修	□選択	学年	2	年	単位数	2			
使用教					建	築計画	(実教出版)			使用	教室		HR教	室			
学習目	aの 標	建築	物を記	計画す	·る」	上での基	礎的な知識と	技術を習	習得させて	、住宅	の平面	ョプラ	ランを立て	させる。			
	評価法		■定其	明考査 フォー		□小テ	業態度と合わ スト ■ノ・ (プレゼンテ	ート・授業	Ěプリント ✓・小論文	・ ■i	振り返 ート・		ート □′ 三学習ノー [*]				
評価	評価観	a	知識	は・技術			೬築物の計画について、快適な住空間や環境対策について基礎的・基本的♪ □識を身につけ、成果を的確に表現する力が養えたか。										
н і Іш	点の	b 思考・判断・ 建築物を計画する上での諸問題の解決を目指して自 表現 知識を活用して創意工夫する能力が身についたか。										ら思	考を深め、	基礎的な			
	趣旨	c 主体的に学習 建築物を計画する上で快適な住空間を提供するために自ら思考を深め											だめ、知				
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および (1~10の10段階)にまとめます。																
学期	月	学	習項目	・単	元		学習内		項	評価方法 [目	a · b · c						
1	4 ~ 7 月	○日建	を 本、 は 築 と 野 と 野	世界の 歴史		日本に	世界の建築の! おいて建築物! 策についての?	に関する	快適な住	空間と]小ラ ■ノー ■振り]作品) 返りシート - -マンス課題	abc abc c abc			
2	9 ~ 1 2 月	○住 進 ○全	をの計 で名計 が か た体計 か か か の が の が の で に の が の で の で の う に う の う の う 。 の う の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う 。 の う の う	画の画		習得す	計画について る。 平面計画につ]小ラ ■ノー ■振り]作品	返りシート ぱ ォーマンス課題	abc abc c abc)			
3 3 担当者	1 〜 3 月	○フ		設計課		進める。	画の中に、快		, E	■定期考査 a □小テスト ■ノート a ■振り返りシート □作品 ■パフォーマンス課題 a □その他 (

計画について、快適な空間をどう提案したらよいかの知識・技能を習得し、平面計画の中に盛り込めるよう 学習しましょう。

												E理番	号	24 C	-206		
教科名	二	美 (列	建設)	科	科	目名	建築構	靠造設計 □必((選択B) 修 ■選択	1 -	学年	2	年	単位数	2		
使用教				3	建築村	構造設	計(実教	出版)			使用都	教室	Y室 HR教室				
学習目	層の標		を構造設 育てる。	計に	関す	^ト る基礎的な知識と技術を習得させ、構造物を合理的に設計する能力と態。										= .	
	評価法	興味関心、学習意欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価しませまで期考査 □小テスト ■ノート・授業プリント ■振り ■パフォーマンス課題 (プレゼンテーション・小論文・レポーディベー □その他 (り返りシート 口作品				
評価	評価	a	知識・	• 技術			関する基礎のいて理解			識を身	につじ	ナ、応	力の	伝達方法や	各種対象	策	
н і іш	観点の概	b		現	5	構造設計に関して自ら思考を深め、基礎的な知識を活用して創意工夫し解決 する能力が身についたか。											
	趣旨	c 主体的に学習 は取り組む は変物の力学に関する諸問題について関心を持ち、解法やその改善・向 能度 目指して意欲的に取り組む態度が身についたか。											序・向上	を			
		に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B (1~10の10段階)にまとめます。									3、C	の3.					
学期	月	学	習項目	• 単ラ	元		学	学習内容・ねらい						評価方法 [目	a·b·c	2	
1	4 ~ 7 月		静定構造 B材に生		力	• 静定	梁の反力、 ラーメン(の応力に [・]	の反力・	応力 法を理解っ	する。]小ラ ■ノー ■振り]作品) 返りシート 品 ォーマンス課題	a b c a b c c a b c		
2	9 5 12 月		浄定構造 B材に生		力	• 静定	ラーメン(トラスの) の応力に・	反力・応		する。]小ラ ■ノー ■振り]作品) 返りシート 品 ォーマンス課題	a b c a b c c a b c c		
3 担当者	1	応	『材の性 ☆力度		村野	・断面・梁の満ちり、	の断面算だ る。		と安全性に	こつい	T]小ラ ■ノー ■振り]作品) 返りシート 品 ォーマンス課題	abcabccabccabcc		

構造物の応力の解法と断面の性質・安全性を学習します。解法順序について繰り返し実践して理解を深めま しょう。

							生	E 理番	号	24C-	207				
教科名	工業	美 (交	建設) 科	科	目名	空気調和設備 □必修 ■選択	学年	2	年	単位数	2				
使用教 副教材			<u>2</u>	空気調	和設備	请(文部科学省)	使用	教室	室 選択教室3						
学習目	習の 標					いせ,実践的・体験的な学習活動 に必要な資質・能力を育成する		ことな	よどを	と通して,2	空気調和				
	評価法	興	■定期考査		:欲、授業態度と合わせて、下記項目で評価します。 ■小テスト ■ノート ■振り返りシート ■作品 ス課題(プレゼンテーション・小論文・レポート・ ディベート・自主学習ノート))										
評価	評価	a	知識・技			和に関わる設備について設計法。 るとともに、関連する技術を身に					·踏まえて				
н і іш	観点の	b	思考・判断 表現	基	技術 養う。	技術者として科学的な根拠に う。									
	趣旨	С	主体的に学 に取り組 態度	1 3	空気調和に関わる設備による生活環境の向上を目指して自ら学び、工業の展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う										
	上に示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および記(1~10の10段階)にまとめます。														
学期	月	学	習項目・単	元		学習内容・ねらい		項	評価方法 [目	a • b • c					
1	4 · 5 6 7	¥	空気調和の基品 合房・暖房負存 显り空気の状態	野態 名物 空、し	空気調利 記り空気 【ねらい 気調和の 方式、熱 た機器の	和の定義・分類・方式、熱源方式。 和の目的、室内環境の規定についる 気(用語と状態式・空気線図の読い】 の基本について知り、さまざまな種類の気 熱源方式を理解し、建築意匠にマッチンクの選定が行えるようになる。また空気調和 資格に必要な空気線図が読めるようになる	■小ラ ■ノー ■振り ■作品) 返りシート cl ォーマンス課題	a b c a b a b c a b c b c						
2	9 · 10 10 · 11 12	¥	令房・暖房負荷 合房・暖房負荷 令房・暖房負荷	· 片 · 片 · 片 · 片 · 片 · 片 · 片 · 宁 · 桂	合房負荷 爰房負荷 【ねらし ^{E気調和村}	機器を設計するうえで必要となる各種負荷 算方法を学び冷暖房の負荷計算表を完成さ	いて)		■小ラ ■ノー ■振り ■作品) 返りシート 品 オーマンス課題	a b c a b c a b c a b c b c a b c b c a b c				
3 羽 平 孝	1・2 3	空気		管理の存在を表する。	R守・管理 R守管り L 規等でが E 規等に必 できる。 E ま物管理	定められた施工方法、寸法等を学び、施工 要となる知識や技術を身に付けることが また、施工後の保守管理について学び、 に役立てる知識を身に付けることができる	Ľ.		■小ラ ■ノー ■振り □作品) 返りシート 品 オーマンス課題	abcabcabc				

空気調和は人々の生活を快適にするため必要不可欠なものです。空気を知り、冷暖房の仕組みを学び、空気 調和の設計に必要な計算について取り組んでいきましょう。

													型型工作 24C-208						
教科名	工業	叁 (交	建設)	科	科	目名		上木施			尺A) ■選択	学	:年	2	年	単位	数		2
使用教					土	上木施工(実教出版) 使用教								室 HR教室					
学習目							料、安全や品質の管理に関する基礎的な知識と技術を習得させ、実際に活 育てる。										こ活		
	評価法		■定期	朗考査 フォー		□小テン	スト	I	· — ト		下記項目 ■振り ン・小論	返りシ 論文・	/ート	、 ート・		品 三学習 <i>ノ</i>	— }	·)	
評価	評価	a 知識・技術 定期考査や小テストなどで生徒の理解度を評価する b 思考・判断・ 知識を具体化するという視点で、調べ学習や作図課題解したことを形にできているかどうかを評価する																	
ат іш	観点の類																		
	趣旨	С	主体的に学習 に取り組む 態度 接業中の態度やノートの丁寧さ、作図課題などで、授業に対する積極性や 体性を評価する													きや主			
		示す観点に基づいて、各観点で評価し、観点別学習状況の評価(A、B、Cの3段階)および評点~10の10段階)にまとめます。												点					
学期	月	学	習項目	・単	元			学習	内容	・ね	らい				耳	評価: [目		a·b) • C
1	4月 5月 6月 7月	±0	:木材 [*] :工	料		・材料の ・規格 ・土質 ・土工記 ・土工記	対料、 <i>▽</i> 計画	木材、	鉄鍋	岡					■定其 □小ノ ■振 ■振 ■作品	月考査 - スト - ト 返り シ - ト - マンス 誘	-}	a b	с с
2	9月 10月 11月 12月		(世工	リート	·工	 ・セメント、骨材、混和剤 ・コンクリートの性質 ・コンクリートの配合設計 ・プレストレストコンクリート ・鉄筋コンクリートの施工 ・コンクリート製品 ・直線基礎 ・杭基礎 									□小ラ ■ノー ■振り ■作品) 返りシ 占 ォーマンス誤		a b a b a b	С
3	1月 2月 3月	○沿	:規		理	 ・地盤改良 ・施工計画 ・工程管理 ・品質管理 ・労働基準法 ・建設業法 								□小ラ ■ノー ■振り ■作品) 返りシ 占 ォーマンス護		a b a a a)	c c c	

土木工事は社会基盤の整備を通して、わたしたちの暮らしに安全で良質な生活を提供するものです。長期に わたって使われる土木施設の施工に対し使命感を持って学ぶことが望まれます。